

# 四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

## コミミズク

—干拓地に潜むフクロウ

コミミズク フクロウ目フクロウ科  
全長38cm 翼開長99cm

[撮影地] 岡山県

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。  
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>

広さ1000haを超える干拓地の一角で、その鳥に出会ったのは偶然だった。車のなかで夜明けを待っていたとき、道路脇の草むらに舞い降りる白っぽい影を目撃したのだ。

そこは鳥のねぐらだった。鳥の名はコミミズク。冬鳥として渡来する草原性のフクロウの仲間だ。干拓地や河川敷でハタネズミを狩って暮らしている。

彼は日中のほとんどを、まぶたを閉じて過ごした。ただ、飛行機が飛んだり、犬が道端を歩いたりすると、金色の瞳をカッと開き、身体を硬直させるのだった。眠っているように見えて、耳だけは澄ましていたのかもしれない。

冬の日は短い。4時を回ると太陽は一気に傾いた。コミミズクは、大きなあくびを一つした。

鳥は、短い足で枯れ草のなかから歩いて出てくると、翼を伸ばし、身体を震わせた。まちに灯がともり、ねぐらに帰るカラスの音が遠ざかる。よく回る首で辺りを見回していた彼は、意を決したかのように羽ばたくと、夕闇に消えていった。